



初聖体（2月17日）

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

奇跡について

—あなたは奇跡を
 信じますか—

主任司祭 小瀬良 明

B、悪霊に関する記述

(a) イエスが「黙れ、この人から出て行け」と言われると汚れた霊はその人をけいれんさせ、大声をあげて出て行った。

(b) 悪霊につかれている者をお治しになった。

(c) ガダラの悪魔つき、またはゲサラの悪魔つき

悪霊につかれた者が二人墓場から出て来た。イエスは彼らの望み通り豚の中に入るように言われると悪霊が入った豚は湖に入り、溺れ死んだ。

(d) イエスは汚れた霊を叱りつけ、その手をいやして父親にお渡しになった。

神の計画実現のため働く聖霊と、それを阻止するかのよう悪霊の力の存在が示されている。

これらの動きは今日でもあると考えるべきであろう。

しかし、これらを見分けることは時に困難と言わざるを得ない。

五官が把握することの出来ない世界、聖霊の力が働く教会が示す方向に向けて私たちは歩むべきであろう。

奥浦修道院 異動

◎ありがとうございました。

(転出)

- Sr 片山ハツエ 紐差修道院
- Sr 濱村みち子 小江原修道院
- Sr 江口 しの 本部修道院
- Sr 黒川 香菜 本部修道院

◎よろしく願います。

(転入)

- Sr 川口 幸子 紐差修道院
- Sr 入口 里子 福江修道院
- Sr 中尾 智美 本部修道院

マチア 橋口朝光神父様帰天

一月十三日、午前一時三十分。心筋梗塞のため逝去なされました。六十四歳でした。

一九九六年～二〇〇四年まで浦頭教会で活躍され、その人柄は陽気で、誰にでも声をかけられ、ミサ中の説教でもユーモアがあり、とても親しみを感じていました。

日曜日に会議がある時に、私が「仕事で欠席させて頂きます」と言うと、「よかよか。仕事、頑張って来んネ」と優しく接してくれました。酒とダジャレと魚釣りと料理が得意でした。

私の心に残っているのは、壮年会で檜ノ浦の前の島でキャンプをしたこと。そして一番の思い出は、典礼委員会と広報委員会合同で平戸の教会めぐりをした事です。

いつまでも忘れることはないでしょう。

神父様のためにお祈り致します。

竹山 要司

2019年度 浦頭小教区評議会役員名簿

<p>評議会会長(主任司祭) 小瀬良 明</p>		<p>信仰教育委員会 委員長 鍋内 秀喜 副委員長 木口 北斗 会計 鍋内 総長 委員 (小学校) 浜崎 毅 (中学校) 入口 庄二 修道院長 Sr.竹口 菊美 カテキスタ Sr.川口 (初聖体・小1年) Sr.岩崎 (小2、3年) Sr.藤原 (小5、6年) 神父様 堅信組</p>	
<p>議長 赤尾 一美 副議長 鍋内 秀明 書記 入口 信隆 会計 浜口 幸隆</p>	<p>地区委員会 委員長 入口 明宏 会計 木口 武雄 (地区委員) (補佐委員) 浦頭 木口 武雄 鍋内めぐみ 浜崎 秀明 木口 由紀</p>	<p>典礼委員会 委員長 小田 哲也 副委員長 浜口 幸隆 委員 本村 義則、浦口 一三 浜崎 秀明、荒木 善弘、 浜崎 毅(聖歌)、浜崎 哲司、 鍋内 総長、入口 明宏、鍋内 孝之 木口 北斗、赤尾 幸治、赤尾 克子 江口 初子、川口 秀子</p>	
<p>経済問題委員会 (堂崎天主堂保存委員会) 委員長 鍋内 誠次 会計 木口 秀憲 小田 洋市 川口 孝章</p>	<p>大泊 梅木 征至 浜泊 浜口 信行 江口 初子 堂崎 入口 明宏 浦 エミ子 嵯峨瀬 谷口 英子 宮原 大楠 進 半泊 宮川 喜一</p>	<p>広報委員会 委員長 竹山 要司 副委員長(島のひかり編集長) 木口 重憲 会計 木口 誠也 委員 小田 洋市、竹山 巧 入口 信、江口 初子</p>	
<p>壮年会 会長 川口 護二 副会長 川口 恵二 書記会計 赤尾 幸治</p>	<p>シメオン・アンナ友の会 会長 山本 一夫 副会長 木口 和雄 副会長 赤尾 喜代美 書記会計 鍋内 民子</p>	<p>福祉委員会 会長 赤尾 一美 副会長・会計 鍋内 純子</p>	
	<p>女性会 会長 川口 秀子 副会長 浦口 千鶴子 書記会計 浦 卓子</p>		
	<p>青年会 会長 川口 広平 副会長 鍋内 利輝 会計 川口 怜美</p>		

今年の黙想会

感謝のことば

議長 赤尾 栄

今年の黙想会の指導司祭は、土井ノ浦教会主任神父様の川端志範神父様でした。



毎年の事ですが、何かと忙しい中で黙想会の三日間ゆっくりと祈り、何かを考える時間を有難く思っています。今年のテーマは、教区シノドスの提言―父の家に帰ろう、そして出かけよう―でした。これは聖書の放蕩息子のたとえそのものだと思えていただきました。神父様は放蕩息子のたとえと、レンブラントの絵画放蕩息子を細かく、深く掘り下げてくださいました。

弟は放蕩の末、反省をし悪い道から立ち返ることを決意し、父のもとへ帰る事を決めます。

兄は帰ってきた弟を受け入れられない。許すことが出来ない。これは一般的などこにでもいる私達の姿ではないだろうかと思えられました。全てを受け止めて迎え入れてくれる父、キリストがいる。私達の共同体教会に、何かに苦しみ、疲れ果てた人達を受け入れる事が出来るのか。放蕩息子を受け入れる場所が用意出来るのか、どう迎えば良いのか考える様にと教えられました。父の思いは変わる事が無い。父は子供だから受け入れて下さる、と信じることで受け入れられるのではないかと教えられました。祈りは一瞬にして変わる事はない。ずっと祈る事によって必ず変わると教えられました。今年50周年を迎える浦頭教会のこれからを、―今、語り継ぐ―尊い信仰、子へ孫へ―をよくよく考えて行きたいと思えます。黙想会の感謝のうちに。

黙想会感謝のことば

副議長 鍋内 秀明

川端神父様、十一日夜から始まった三日間の黙想会、大変お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

今回の黙想会のテーマは、「教区シノドスの提言による五島地区の教会を考える」ということで、難しい話になるのかなと思いつつ参加させていただきましたが、いざ始めてみると川端神父様のほんわかとした雰囲気の中、ほうとう息子のたとえ話をもとに聞き入っていました。

シノドスの提言にもあるように、信徒の減少、教会離れの問題はここ浦頭小教区も例外ではありません。この奥浦地域全体の人口も九九七名と、ついに千人を割り込み、高齢化率も二人に一人が六十五歳以上近くになっています。私は、ほうとう息子のようになんか投げ捨てて財産だけを持って飛び出す勇気も、

また、その兄のように従順でまじめにしっかりと家を守り抜く自信がありません。ただ、今年九月、浦頭小教区設立50周年を迎える今の私たちに何が出来るのか、「しかたんなかつさ」ではなく、かけがえのない神様の大切な子供であるという自覚と覚悟を持って、離れていく人、帰ってくる人たちに、帰りたいと思える場所、心が安らぐ場所とするため、何をすべきか、何が出来るのか、なかなか答えが見つけづらく、簡単なことではありませんが、50周年だからという事ではなく、共同体として常日頃から考えていかなければならないと感じています。

土井ノ浦教会においても、また違った悩みや課題があるうかと思えますが、どうか川端神父様の人柄と優しさで、私たち信徒を条件なしで、憐れみ深い父のように迎え入れていただければと思います。

初聖体のお恵み 感謝

シスター 片山

いつも強い責任を感じて行く初聖体の要理。信仰の礎となるからだ。天地創造や父なる神、善と悪・ご聖体・キリストと救いの歴史・赦される喜び、当り前の日々は全て恵等々少しずつ覚えて、初聖体を皆様と共に喜ぶことが出来ました事、感謝しています。

ヨハネ なべうち ゆい

はつせいたいのしきのときはたくさんのひとのまえにたつてともドキドキしました。

ごせいたいをいただいたときこんな、あじがするんだなとおもいました。

きょうかいにいっぱいいくようがんばりたいです。

小さき花のテレジア

こばやし みさき

みんなで、えんちようせんせいからイエスさまのおたんじょうなごをべんきょうしたのはたのしかったです。

はつせいたいしきは、ろうどくをしました。とてもぎんちようしました。しんぷさまからごせいた

いをもらつてうれしかったです。

セシリア おだ きら

ごせいたいをもらうとき、どきどきしたけど、うれしかったです。きょうかいにいって、おいのりをがんばります。よろしくおねがいします。

ヨハネ五島 なべうち ひかる

どきどきしたけど、がんばったはつせいたいしき。おいのりのべんきょうをたくさんしました。きょうかいの人からも、おいわいしてもらつてうれしかったです。せいたいのあじはおもつていたのところがたけど、これからもきょうかいへいくのがたのしみです。



初聖体のお恵みに 感謝して

小林 利彦

子どもの初聖体式が無事に終わり、保護者としては安堵するとともに、式を見守り、祝福していただきました信徒の皆様にご感謝しております。

洗礼を受けた後も、本人はよくわからないまま親に連れられて教会に来ていたと思いますが、気づけば一緒に聖歌を歌ったりするようになっていました。子どもの成長を感じられるようになったのと同時に、初聖体のこととも考え始めましたが、まだまだ甘えていて、気分屋の娘が果たしてちゃんと勉強できるのか、おけいこを続けられるのかが不安でした。いよいよ「今度から初聖体のおけいこを始めるよ」と伝えると、子どもは「うん」と元気よく反応してくれました。三人のおともだちと片山シスターのおかげで毎回楽しく行つてくれてほつとしました。また、毎

回おけいこが終わると、どんな勉強をしたのか教えてくれたので、「ああ、ちゃんとシスターのお話を聞いているんだなあ」と改めて安心していました。

保護者としても、可能な限りおけいこの復習をおこなつたり、朗読の練習をやってきましたが、初聖体式は、ドキドキしながら見守るしかありませんでした。無事に朗読や聖体拝領、お礼の言葉までやり遂げることができましたのも、小瀬良神父様はじめ、信徒の皆様に見守つていただけのおかげです。改めて感謝申し上げます。

今は毎週のミサの際、子どもが傍にいないことに寂しさを感じています。初聖体式以降、家でもお祈りを唱える姿に感心するとともに、教会の子ども席にいる我が子を後ろから見守り、子どもの信仰がよりよく育まれるように、保護者としてのあり方を意識していきたいと思いません。

中村長八神父様の 生涯を追って ⑧

目の前に立っている六尺ふんどし一つになった老人が、名前が知れ渡った中村神父だという事は一目で相部屋の彼には分りました。それは神父が中に入ってきた時、新聞に載った写真が脳裏をよぎったからです。

学校の先生をしていた彼に向かって、ふとったお腹をぽんと叩いた中村神父は、ふんどしに手を掛け、「これさえしつかり締めておけば、原始林の中だろうが、何処だろうが、びくともしませんよ。ハッハッハッ。」と笑った後、「あんたもこれですか。」と聞きました。先生は、「いえ。私はパンツです。」「ああ。でも日本人はそんな物では駄目ですよ。これをおやりなさい。しつかり締めていればもう大丈夫。」

その後、この六尺談義は一時間続きました。

「いや、これは長談義をやり

ましたね。さあ、もう寝ましようか。」と、又、お腹をポンと叩いて、二人は眠りに就きました。

先生は中村神父と初めて会った時から、その気さくな人柄に魅了されたそうで、その後も彼の方から中村神父を何度も訪れて語り合ったそうです。

その後、移民の数が増え、中村神父一人では手が回らなくなり、日本の教会に援助を求めました。それに答えて、フランシスコ会とイエズス会から神父が来てくれました。いずれもドイツ人でしたが、日本語は堪能です。談議の上、中村神父はソロカバナ鉄道沿線のアルヴァレスマッシュャードを拠点として布教する事になります。巡回区域自体は三分の一程になりましたが、逆に深く関わっていく事で仕事は増えていきました。その後、彼の熱心な布教の実践は、遠くローマ法王方まで届き、それは叙勲という形に繋がっていきま

洗礼・初聖体のお恵み

入口ひろ子



この度、娘の蘭樹と共に洗礼と初聖体のお恵みをいた

できました。蘭樹はダウン症で、喋ることができません。現在十二歳ですが、小学生と間違われるほどの幼い容姿です。御ミサでは、子供達が大好きで見る度に歓声をあげたり、歯ぎしりをしたりと、とても褒められる態度ではないのですが、信徒の皆様にも温かく見守っていただきながら、教会に通っています。ここに至るまで、いろいろな方からお力添えをいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。私は五十七歳ですが、まだまだ知らないことばかりで、神父様から「ずっとお勉強ですよ。」とお声かけをいただいています。遅ればせながら、皆様の後を一

生懸命についていく所存です。で、末永くどうぞよろしくお願ひ致します。

派遣されて一年の歩みに思う

Sr 山本 佐記子

桜の花のちらほらする頃、いや満開？教会の庭に立ち、創造主の神様とふるさとの景色に感動し、賛美したことを思い出す。信徒さん達との交流、一番身近な毎日の御ミサ礼拝である。先ず、司祭を中心に侍者の敬虔な姿勢、祈りの先唱達、神を賛美する聖歌の祈り、歌声、やっぱり私の若かりし頃の教会共同体は失われていないと、少なくともなっていく信者数の中、懸命に子へ孫へと伝えていこうと励む皆様に負けじと、後姿に励まされ、包丁、みそ、しょうゆの中に神様とマリア様を見つめて、これからも浦頭共同体の一員として、共に日々を過して行きたい。

鎧戸改修 終わりました

鍋内 誠次

数年前から気にはなっていたが、なかなか手つかずの状態だった鎧戸。今年、やっと改修することになりました。特に、海側はボロボロでしたので、一安心しています。二月に業者の方が撤去して、持ち帰って工場加工し、二・三週間後に取付けて戴きました。ただ、山側も傷んでいる部分も多く、現地で手直しをしながら改修していただきました。お陰様で鎧戸が目立つくらいの上上がりです。皆様にも一度、見ていただきたいと思えます。今回、いろいろとお世話頂いた市の担当の鍋内さん（副議長の奥様）に、心より感謝いたします。



颯太!!

卒業シーズン中の三月十七日、毎年恒例の移動信徒の集いを神羊館にて行いました。昨年に続き、今年も一人と寂しい人数ではありましたが、良い激励会となりました。

今回の主役は鍋内誠次・由記子夫妻の末っ子の鍋内颯太君。大学進学のために親元を離れて熊本へ行かれます。

両親に「寂しくなりますね」と伺うと、「そうでもありません」と言われていましたが、本当の所はどうなのでしょう？ 会には各役員の諸先輩方が駆けつけており、一人一人励ましの言葉を話されました。



颯太君からは、「島を出て、精一杯頑張ってきました。今までもありがとうございます。これからも、よろしく願います。」と元気に挨拶を頂きました。帰省時には、皆さんの前で聖書朗読して元気な姿を見せてもらいたいと思います。

秘 跡

◎初聖体おめでとうございます。

二月十七日

小さき花のテレジア

小林 心咲 父利彦 母寿枝

セシリア

小田 綺空 父哲也 母ルミ子

ヨハネ五島

鍋内 光留 父秀明 母千亜喜

ヨハネ

鍋内 優聖 父孝之 母めぐみ

《帰天》

アレキシオ 赤尾 明

二月九日（八十一歳）浦頭

アグネス 浦口 カヲル

二月十九日（九十五歳）浦頭

おたより

主と共に「島のひかり」編集係さま、ご苦労さまです。

益々輝く島の便りを楽しみに拝読させていただきます。

東京都文京区

東京修道院 Sr小島エイ子

島のひかり編集部みな様、一日の仕事を終えられ、つかれている中にそれから編集の作業おつかれ様です。毎号楽しみになつかしく読ませていただいております。

島のひかりが、あちこちで信仰のひかりとなり、又、浦頭教会の信徒の絆を感じます。感謝の中に。

感謝の中に。

長崎市小江原修道院

Sr木口 直恵

Sr小田崎ケイ子

“ ありがとう ”

Sr 小島 エイ子 様

Sr 木口 直恵 様

Sr 小田崎 ケイ子 様

ふる里に就職して

二人の若者がUターン。くしくも二人とも市役所の職員として採用されました。

浦頭 川口 良平

一年半くらい前から帰って来ておりました。川口です。今年度から市役所の方で働かせて頂くことになりました。現在、新入社員として、早く仕事を覚えようと頑張っております。

五島に帰って来てからよくあることは、兄に間違われることです。自分ではあまり似てないと思っっているのですが、周りの方から見ると結構似ているようです。ですので、どっちだろう兄かな？弟かな？と迷った時、少し身長があるなと思ったら、それは弟の方である可能性が高いです。ぜひ、参考にしてください。

こんなどうでもいい情報を書いているうちに、抱負を書くスペースがなくなっていました。

地域行事、教会行事、消防団仕事、プライベート、いろいろありますが、とにかく頑張ります。

南河原 鍋内 利輝

今年四月から、浦頭教会に再びお世話になることとなりましたので、簡単に御挨拶させていただきます。

私は高校卒業後、九年間五島を離れておりましたが、近年地元への意識が高まってきました。離れている間は、ミサに行けていなかったのが正直なところでした。四月からは、浦頭教会でお世話になりますので、少しでも教会の活動に参加して行ければと考えております。

今後、教会の活動等において、皆様に御負担、御迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

私も微力ながら、教会の活動に貢献していきたいと思えます。

司祭団マラソン

「キツカー、もう来年は走らんぞ〜」

フラフラになりながらゴールテープを切った神父様が大きな声で言われていました。ん？確か去年ゴールした時も同じ事を言われていたような…

毎年恒例の司祭団マラソン大会が、一月二十九日開催されました。天候にも恵まれ、絶好のコンディション。堂崎教会から福江教会までの約八・五km、気合の入った顔、ひきつった笑顔、不安そうな顔、何かを諦めたような顔、もうすでに倒れそうな顔、様々な表情の神父様達、ゴールを目指してスタートされました。

スタート時は軽快な足取りの神父様達。平坦な道から徐々に登り坂に差し掛かると、脚に重りが付いたように中々前に進めなくなる神父様が出て来ます。しかし、絶妙な距離で待っている応援の方々のおかげで、頑張っ

て走り続ける神父様達。やはり、応援して下さる信徒、年配の方々や小さな子供達の前では、格好良い神父様でなければならぬ様子で、力を振り絞って元気な姿で応援に伝えていらっしやる神父様達の姿に、目頭が熱くなる思いでした。

そんな神父様達の力走を後押ししたのは、何と言っても施設から車で応援に駆けつけたお年寄の方々と、保育園の園児達、そしてそれぞれの教区の信徒の方達だったのは間違いのないと思います。信徒の方達のドリンクや差し入れ。車から聞こえる「ギバレ！」「頑張れ！」の声。沿道に並んで赤いほっぺたで「神父様頑張れ！」と叫ぶ保育園児達。棒のようになった脚に力を注ぐ応援になった事でしょう。

峠を登り、谷を越えゴールテープを切った神父様達は、確かに疲れ果てていましたが、皆笑顔でゴールされていました。

「もう来年は走らんぞ！」でも、沿道の声援は忘れられないでしょう。来年も頑張れ！

ふる里だより

卒園式に添えて

奥浦小 教頭 山口 正勝

「いつも快活」「喜び」。これは、サイネリアの花言葉です。サイネリアが、寒い冬から春にかけて明るく華やかに咲くことに由来しているそうです。

先日、一・二年生が、卒園式を控えた「平和のぼら保育園」へサイネリアの花を届けてきました。子供たちが育てた花と書いたところですが、栽植のプロジェクト西崎校務員が丹精込めて育てたサイネリアです。お祝いの



心を添えてお届けした鉢花が、卒園式の華やかさを演出してくることを願っています。

平和のぼら保育園卒園式



春一番が通り過ぎ、保育園の下の河津桜が色鮮やかに開き始めた三月九日、四十六回目を迎えた平和のぼら保育園卒園式が開催されました。

今年の卒園者は六名。皆それぞれ、昨年卒園者を送り出した時よりも一回り大きく成長し、しっかりしたお兄さん、お姉さんの顔になっていました。

四月からは活躍の場を小学校に移し、新たな生活が始まります。平和のぼらから今回巣立ってゆく子供達が、これからさらに成長、活躍し、後から続く平

和のぼらの園児達の道しるべとなるよう期待し、願いながら見守って行きたいと思えます。

道路改良工事により
蘇った大久保野線

大久保野線（市道三十四号線、浦頭・木の口バス停付近約百五十メートル区間）は、長年の懸案事項として再々にわたり市へ拡幅工事申請の陳情を行って来ました。この度、数十年の願いが叶い、昨年四月から十ヵ月にわたる道路改良工事により、今年一月中旬に完成し、景観的にも立派になり、スムーズに車両が離合できるようになった。



編集後記

新しい元号「令和」が、五月一日より施行されます。発表前は、テレビ・インターネットを通じて何になるか予想しており、私も考えましたが全然違っていました。

春は学生であれば、新たな学び場、教師、クラスメイト等、今までと異なる環境になる為に、新たな目標を持って生活する事が多くなるのではないかと思います。かく言う私は、会社、家庭、地域の事をこなすだけでやっとなかなか目標を持って生活していませんが：

ただ、改元となると個人的には気の引き締まる思いが多少なりともあるので、これを機に何か目標を持って生活していければと思います。

まずは、「その日の事はその日のうちに終わらせる」単純な事ですが、なかなか私には難しいので、良いクセにしていければと思います。

入口 信